

八甲田山・山スキー

(2015年3月)

(39年卒) 木村 恒夫

OB会のホームページに現役の篠原君が「山スキーに向けて」の現役の活動報告を投稿されたのを「頑張ってるな」と嬉しく、楽しく読ませてもらった。そこで現役と同様頑張っているOBの直近の活動報告を、それも立命ワンゲルを立ち上げた鎌田先輩以下が未だワンダラーとしてアウトドアを楽しんでいることを伝えたく文書化してみました。

昨年この時期に岩手～秋田県の山々に山スキー道具を担いで出かけました。

今年は八甲田山をじっくり楽しもうと鎌田先輩(35年卒)からの呼びかけで39年卒の湯浅氏と私が参加。さらに昨年東北に同行した山スキー好きの計7名のグループで八甲田の酸が湯温泉に5泊6日で行ってきました。

3月19日 早朝の伊丹空港発で青森空港に。空港から路線バスでJR青森駅へ、駅からは宿配車のバスに大急ぎで乗り換え、昼前に温泉宿に到着。

曇り空であったが見通しもそこそこなので足慣らしに宿直近の「硫黄岳ルート」を辿って仙人岱ヒュッテを目指すことに成り13時発で行動開始した。

鎌田先輩は昨年末に山スキー道具一式を更新され使い慣れる為に12月に蔵王スキー場(森村さん、打越さん、西尾さん、村田さん、筆者も参加)で調子を把握、1月に乗鞍高原スキー場(筆者も参加)でシールを付けてグレンデ上へ、2月には岐阜の大日岳にも登られ万全の準備をされて来られただけ有って、また通い馴れたるルート故にガンガン我々を牽引されました。

硫黄の匂いの漂う中、登り詰めて行くと岩石がアチコチ頭を出している。



この時期は通常5m前後の積雪が今年は3m前後とここにも温暖化の影響が出ている。

ヒュッテ(非難小屋)に近づくにつれてガスが掛かり見通しが悪く成って来た。

15時に小屋に着く。中を覗くも暗く、人の気配が無い。

ここは晴れておれば硫黄岳を含む素晴らしい景色が見えるのに残念。

一息ついた後シールを取り外し、後は元の登り口へ下るだけ。

暫くは頭を出していた岩石を避けての注意深く滑り、其の後は林間を登り口まで快適に下った。

早朝に家を出て昼過ぎから山スキーが出来る、その上に認知された山スキーのルートが何本もある場所が他に有るだろうか。

思いめぐらした後千人風呂に入って、ビールを飲んで地元のご馳走を食べて明日に備える。

3月20日 昨日の午後の足慣らしでそれぞれ体調、体力の確認が出来、且つ、天気も晴れたり曇ったりの空模様。宿8時発の無料送迎バスに乗り、ロープウェイを利用して「宮様ルートから登り返して大岳環状ルート、大岳を回って硫黄岳ルート」に挑戦しようとする。

ロープウェイの山頂駅から電波塔（山頂）までスキーを担いで登り、そこから宮様ルートを目指す。滑り出しは方向に不安は無かったが段々ガスが深く成り見通しが悪くなる。

元気印の鎌田先輩が先頭で磁石と地図を見つつ我々は目を大きく開いて目印の竹棒や標識を探す。竹棒を追い求めたばかりに登り返しの地点を滑り下り過ぎて宮様ルートと大岳環状ルートの合流地点に至ってしまった。

そこからシールを付けて大岳と井戸岳の鞍部を目指す。

高度が高く成るにつれてしっかりしたモンスターが現れる。道中の下方ではモンスターの上部が崩れ、落下しているのが見受けられた。

登ったり下ったりしながら鞍部の少し上に出て、眼下に大岳ヒュッテ（非難小屋）を見つけた時には苦労と多少の不安が吹っ飛んで安堵する。



後は大岳を高度を落とさず東側に回り込んで昨日至った仙人岱ヒュッテに下って酸が湯温泉に向かうだけ。段々見通しが良く成り広大な展望を楽しむことが出来た。

シールを外して下り始めて暫く滑ると大きな雪庇に出くわすが少し下方に迂回して回り込みそこから斜滑降で雪庇下を下り降り全員安全地帯に到達。そこは大岳の東面。

鎌田先輩から順次速やかに間隔を空けて滑るように号令がかかる。大岳の上部からの雪崩を気にしての指示であることはすぐに分かった。

大急ぎで滑降体制に入り高度を出来るだけ落とさない様に大岳と小岳の鞍部上から仙人岱ヒュッテを目指してほぼ（学生時代にしっかり練習させられた）斜滑降で滑りこむ。ヒュッテからは昨日の硫黄谷ルートを避け硫黄岳の鞍部を通過して昨日の下山地点まで下った。

登りにしろ下りにしろ充実した一日であった。

3月21日 北八甲田山での一番長いルートが箒場岱ルートであるがメンバーの誰もが行ったことが無い。この時期は未だ八甲田山周遊のシャトルバスは無く山麓に下りた場合夕

クシーを呼ぶか登り返すしかない故か。

宿取り扱いのガイドツアーは行動当日の天気と人数を見て行き先をロープウェイ乗り場で決めることに成っているとのこと。天気良ければこのルートに行くこと聞きだし予定する。

9時に宿のバスでロープウェイ乗り場まで送ってもらえ、下山地点に迎えに来てくれるとのことであった。

今日は安定した良い天気とのことで予定通り箆場袋ルートのガイドツアーに参加することに成った。頂上でボードグループとスキーグループの3班に分かれ、スキーグループはアップダウンの多いコース(頑強組)と少ないコース(軟弱組?)の2組に分かれる。仲間の一人は「多い」グループに参加するが私を含む六人は「少ない」グループに参加した。



山頂(電波塔)から「多い」組は毛無袋方面に下って行く

我々は(ガイドの)隊長である人が先頭に立って田茂菴岳の側面から宮様ルートに沿って高度を下げない様に又樹木や樹木下の穴凹を避けながら井戸岳と大岳の鞍部下の直近を目指し登ったり下ったりしながら進む。

鞍部を見上げる平らなところでシールを付けて登ることになる。

昨日と違い気温が下がっているのか表面がクラストしている。

クラストしているに関わらず近年のシールは素材も良く、表面積も大きく成っているでかさほど滑ることなく登れる。

やがて樹氷に成っている樹林間を抜けると昨日より下側に出て、大岳ヒュッテ(非難小屋)の側に着いた。小屋の壁面は軽い雪は吹き飛ばされているのでこの様な姿(写真)であった。



休憩の後シールを外し大岳の東面を通って小岳の鞍部へと滑り込むことになる。

ガイドは昨日我々が回避した雪底下迄引率する。

昨日は我々は小岳の鞍部の上へ出来るだけ高度を下げずに下ろうとする故に雪底下に出くわしたのであったがさすが良く知っていて無駄のないコースを案内してくれる。

大岳非難小屋

大岳から小岳迄のルートは昨日我々が行動したルートとほぼ同じであるがクラストしている分注意深く滑ったが快適に鞍部に至った。

ここで昼食を済ましシール登行で小岳の頂上を目指すことになる。

小岳は噴火口が小さくお椀を伏せた様な山で、樹林間隔も広く谷なるものがないので割合楽に登れた。



(小岳中腹から大岳、鞍部、井戸岳を望む)

小岳の頂上近くからは四方八方の展望がよく景色が楽しめる。

ここから高田大岳のすそ野を目指し、回り込んで、箒場岱のバス停へと下る。

下に行く程なだらかに成り若干閉口するも無事に下り終えた。

そこには酸が湯のバスが待っていて楽に帰着した。

これがガイドツアーの特典で楽であった。

3月22日 昨日に続き今日も天気が良さそうで独自で八甲田温泉ルートに行くことに成るが早朝は雪面がクラストしている可能性大につき遅い時間の路線バスでロープウェイ乗り場に向かった。

地図で調べる限り山頂（電波塔）迄の緩い登り以外は無さそうで、時間も十分にあるので快適に一日が過ごせそうと気楽に出かける。



(ロープウェイ山頂駅からの展望)

頂上からの景色を楽しんだ後、前嶽と赤倉岳の鞍部へと下る。

ルート上には番号が記されていない表示板（丸板）があるとのことで、これを探しながら下れば問題なし。

銅像ルートと温泉ルートの間には前嶽の素晴らしい斜面が見えるが今回は入り込まない。

数年前に滑ったことのある銅像ルートを左手に見つつ滑り込む。

箒場岱ルートの後半はなだらかな下りであったがこの温泉ルートは適当な傾斜で且つ下方の距離が短く良かった。

終点は田代平の八甲田温泉の三叉路(ゲート)のある所で、本来ならこの地点から登り返し元に帰らねば成らないところでは有ったが、宿に鎌田先輩の交渉力で無理を聞いてもらい手配出来たバスを待つ。大助かりであった。

3月23日 昨夜から雪が降る。朝食時もチラチラと降ってる。

すでに四日間も滑っているのでそれぞれ如何にするかを悩むも楽なところに行きましようとのことに成りフォレストコースを滑って宮様ルートを滑ることにして、宿手配のバスでロープウェイに向かう。

昨夜より10cm強の降雪があり新雪と成ったがその下は氷結している。



表面はなだらかであるがその下は??。積雪の状況は昨日までと違って難しい。氷結でガタガタ、吹き溜まりもある。狭い所、急な所もあって注意深く下る。中程からはなだらかになり、着けられていた氷結シュプールを避けて林間に入ってロープウェイ乗車口に至る。

頂上に着くと朝とは異なって深いガスに覆われている。

(フォレストの中間のブナ林)

今回で4日連続の山頂(電波塔)に登り深い霧の中であるが宮様ルートを通過して酸が湯温泉を目指す。

田茂菴の湿地地帯までゆっくり下った。暫く下って登り勾配に入るが視界は10m前後に成り方向を見失う。目印の竹竿がなかなか見つからない。

完全にホワイトアウトの中にはまりこんだ。

GPSでチェックしつつ地図と磁石を見ながら進むが移動の感覚からは緩い下りの傾斜に入るはずが何時まで経っても緩い登り勾配で???

再度GPS、磁石、地図で方向を見定めて進む。

樹木が視野に入った所で立ち止まり進むべき方向を確認して進むと道しるべの竹竿が見つかりやれやれ。



霧が希薄にならない中大きく目を開いて竹竿やマークを探しつつUP~DOWNをこなし環状ルートに合流した合流点から少し進んで急な所を下れば酸が湯温泉から見える場所に出る。後はこの急斜面を下れば本日の行動は完結である。行動した者全員無事に帰り着いた。

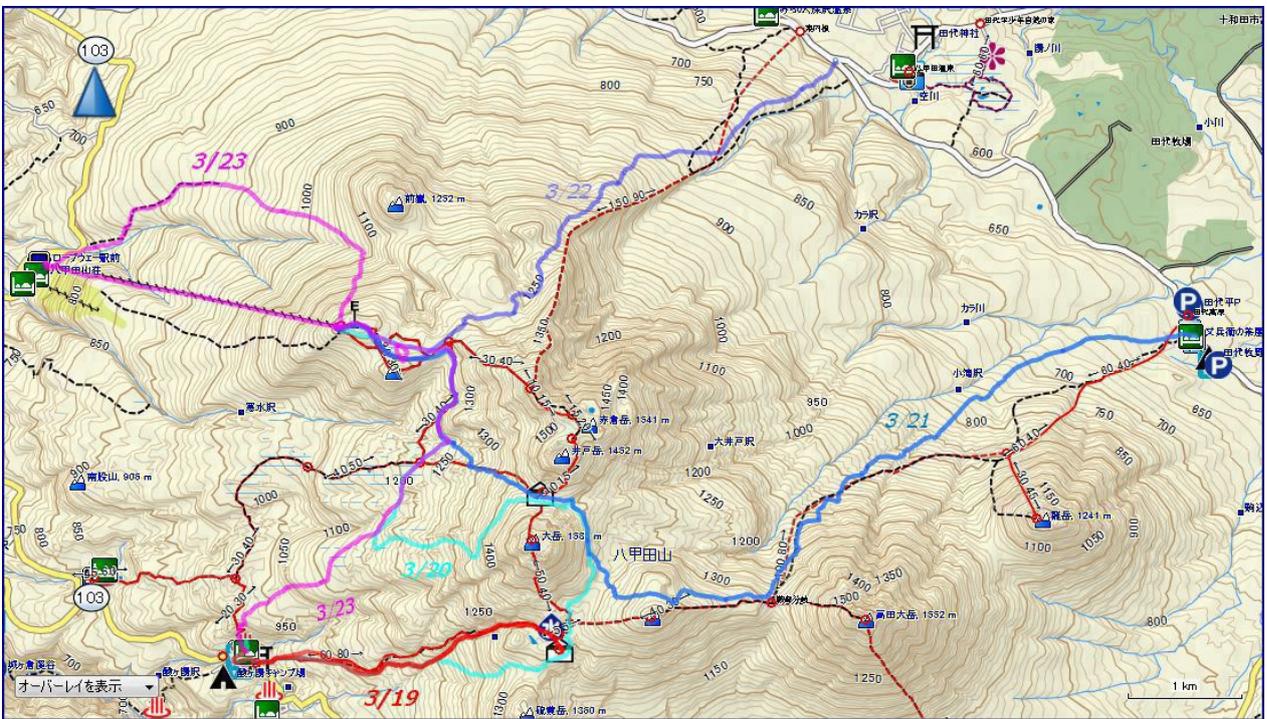
3月24日 予定の最終日である。帰阪の飛行機は夕方である。

天気予報では寒気団が南下中とのことで、青森市内は雪&雨と出ている。宿の外は風強く雪が舞い舞いしている。

5日間毎日山スキーに出かけていて、温泉に入って癒やすも疲れが残っている。頑強者がいてフォレストコースに行こうとの提案もあったが・・・。全員酸が湯温泉の送迎バスで帰路に着くことに成る。

平均年齢75歳の仲間と5日間連続に滑ることが出来たことも、鎌田先輩が率いる良きパートナーに恵まれこの様な思い出を残すことが出来たこと嬉しく思っています。

これもRUWVに所属していたお陰と今も感謝しているところです。



その他

ロープウェイを使って電波塔まで登れば八甲田温泉ルート、中央ルート、宮様ルート、銅像ルートはシール貼り付け無しでも楽しめる。但し、ルートを外れたり、積雪の多少によっては如何に成るや???

宿に泊まって交通手段が確保出来ない時や天気が悪い時はガイドツアーに参加するのが良からう（ガイドツアーは一日コースは4,000円、半日コースは3,000円である）。

ガイドツアーはロープウェイ頂上で正式にコースが発表されることに成るが打診である程度把握出来る様であった。

今後も行く行かぬに関わらず現役の方々と情報交換を含む交流を深めることが出来たら良いのになと思っています。何時かには現役が今冬合宿した赤倉スキー場の上の赤倉岳にも登りたいと思っています。

さらには鳥海山や月山を時間を掛けて色々なコースを楽しみたいと検討を始めました。

以上